

市政懇談会

平成20年度



先月からお伝えしている産業別、分野別の市政懇談会の模様。今月は、建設業、製麺業、後継者関係について、お知らせします。原油価格の高騰は、市の産業に深い影を落としています。特に産業そのものの低迷が続く建設業、製麺業では、さらに追い打ちをかけて、経営を圧迫していることを参加者は、市長に伝えました。また、後継者からの声で特徴的だったのは、今の南島原市だけでなく、環境問題など未来への課題の提言や要望が多く寄せられました。

市長は、未来を担う若い後継者の力強い意見を聞き、自らも意見をしながら、論理的な話しぶりと熱意に深く感心していました。

後継者



産業別ではなく、後継者という切り口で開催したところ、もともと活発な意見が出されました。自らの産業だけではなく、異業種への提言や、連携などについての論議は、新しい南島原市を十分に予感させるものでした。

質問 昔は黒くつぞこが多く水揚げされていたが、最近は全く取れなくなった。幻の魚となりつつあるこの魚の稚魚の放流事業をお願いしたい。

回答 県と協議中です。一緒にやっていきたいと思っています。

質問 風倒木を使って漁礁を作っている自治体(水俣湾沿い)がある。藻が付きやすく、自

然にやさしいうえに、地元でごみとして焼却するはずのものが利用できるなど優位な点が多い。研究やサポートを市にお願いしたい。

回答 藻が付きやすいコンクリートが研究されていますので、これらの効果などを検討させていただきます。

質問 私はそうめん業を営んでいるが、そうめんの原料は輸入された小麦。先日、島原産の小麦を100%使ったそうめんを作ろうと、自分で小麦を栽培した。そうめんを作り、有機食材のレストランに出荷したら好評だった。安定的に南島原産の小麦を供給できれば、付加価値の高いそうめんを作ることができるのではないかと、市内に荒地が多いならば、小麦を作ればどうか。転作奨励金も出ているようなので、これらを活用してはどうか。

回答 転作奨励金はそれほど高くないので、これをあてにして、作付けすることは難しいと思いますが、放棄地の解消のためには、そのような取り組みが必要だと思います。

質問 現在、そうめん業界はまとまることもしないし、資材も共同で買うこともしない。

行政で業界の後継者を集めて、話し合う場を提供してもらえないか。

回答 これまでの努力の結果が、現在の状況だと思っていますが、一本化は市の願いでもありません。場所を提供することは可能ですので、まとまれるよう皆さんのがんばりに期待します。

質問 重油を多く使用する農家に對して、市からの援助はないのか。

回答 補助制度を設ける予定です。一時的な直接補助は効果が薄いので、より効果的な事業の検討を進めています。一刻も早く、という意見もありますが、10月1日に遡及して実施し、皆さんに少しでも有利にしたいと考えています。もう少しお待ちください。また、逆に何かよいアイデアがあれば教えてください。

質問 魚を触れない、食べない子どもが増えている。家庭科の授業で調理の機会をもてないか。

回答 朝ごはんコンテストなどで啓発しています。小学校3校(約2時間)、中学校5校(約4時間)が、授業で魚の調理を行っています。

したい。現在保健所の販売許可を取るのが難しいことから「そうめん特区」などの措置が取れないか。

回答 特区については、後日回答します。(後日の回答内容、「許可＝衛生基準を満たす」ことから、「衛生基準を満たさない出店許可」の特区申請はできないと思います。許可が取れないわけではないので、許可をとる方向で検討してみてもどうでしょうか?)

また、PRの一環として、市内の食堂で昼食にそうめんを食べるキャンペーン「そうめんミートイニング」をやっています。そうめん料理を工夫して出したいと考えています。今後とも地産地消に取り組んでいきます。

質問 学校給食などで何とかそうめんを出して欲しい。

回答 自校方式の学校では、年に何度か提供しています。センター方式の場合は、ゆで加減の問題もあって難しかったのですが、最近技術的に可能になってきており、検討したいと考えています。

建設業



参加者は、市の請負工事の減少が経営を圧迫していること、市民の立場から社会資本(道路や河川など)整備の必要性を訴えました。その上で、工事の積算の歩掛り(単価)や最低制限価格の見直しなどを求めました。

質問 入札の最低制限価格を市独自で設定できないか。

回答 最低制限価格は、県に準じて設定しています。実勢価格に着目して決定しているようですが、今後見直す時期が来るのではないかと考えています。

質問 設計の歩掛りが、実際とずれており、是正するよう県

にも毎年陳情している。国交省などに陳情できないか。あるいは、市で独自に設定できないか。

回答 歩掛りの設定を市で行うことは、技術的にも、人員的にも難しいと思います。

質問 指名のあり方について、業者が、ABCとランク分けされているが、本市ではAとBの混合で指名するなど混合で指名する理由は何か?さらに、同じランクで地元の工事に指名がかわらないことがある。地元の業者を優先して指名して欲しいがどうか。

回答 平成18年4月1日から指名の枠を広げました。受注機会を広げる目的でこのようにしています。また、地元優先の指名は、以前から行っていますが、このほかにも指名回数など、全体的なバランスを考えて指名をしています。

質問 南島原市の制限付一般競争入札、総合評価落札方式の入札の導入の可能性は。

回答 当面、指名競争入札でやっています。総合評価方式は、現在は、県が、試行的にやっていますが、本市では、効果や問題点などを検討している段階です。

製麺業



参加者は、小売価格の底上げが難しい現状を伝え、島原手延べそうめんのブランド化を強く求めました。また、生産者の現在の安売競争構造の払拭の方法について、市長と活発な議論がなされました。

質問 参考資料に対する質疑をした際に、応答の見解が各部署で異なる。そのままでは積算できない場合もあり、内容が把握できないまま入札に望むことがある。善処願いたい。

回答 積算はできると判断していますが、それでも不十分な場合は、再質問をお願いいたします。縦覧期間の制限もありますので、その場合は早めの対応をお願いします。

質問 そうめん業界は価格低迷、原材料高騰で困っており、そうめん連絡協議会の運営にも支障が出ている。対策は。

回答 有家町・西有家町の製麺業者限定ですが、「地域産業対策資金」という銀行の低利融資の制度があります。燃費対策にも適用されるのでご利用ください。

質問 原料価格の高騰を販売価格に転化できずにいる。これは販売団体が多様化しているからで、市で一本化するなどの調整をしてもらえないか。

回答 「地域ブランド」は業界がまとまった組織でないと申請できませんので、皆さんが一体となって取り組む必要があります。この場合も品質を落とさないなどの取り決めが必要ですが、申請できる状態にないのが現状です。

団体の一本化について、これまで話合いの場を設けて来ましたが、今後も、積極的にやっていきます。

質問 野外イベントでそうめんの無料試食会を行っているが、もっと食べたいというニーズに比べて、有償でも提供